

社說

說

**勵業銀行の募集**

勵業銀行は昨今第四回の債券募集に着手し重役を始め行員を各府縣に派出して廣く應募の事を世間に勸誘する由なれども果して其目的を達して満足の結果を收むるを得るや否や從來都會と他方との金融が互に連絡を通せず一方の遊資を移して他の逼迫を緩和するなほの作用を望む能はざるは明白の事實にして例へば戦争後米價を始め諸物價が一般に騰貴したる場合に事業家の輩は資金を運轉するに當て自から不足を感じて大に需要を增加したる其反對に各地方は賸費したる米を賣て資金の供給に餘裕を呈したるより少なからずと云ふ勵銀銀行の目的とする所は債券の發行に依て斯る遊資を吸收して一方に資金に窮する工業會社の類に貸付けて目前の困難を救濟せんと云ふに在りて先頭債券の額面を二十圓に引下げたるが如きは全く此邊の主旨に出づるものに外ならず若しも募集の効を奏さんには都鄙の金融を疏通して經濟上に多少の利益を收むるの望なきに非ざれども一方より考ふるに地方農民の生計に餘裕ありと云ふが如うは既に兩三年以前の事にしテ戦争後述に増加したる奢侈品の輸入が昨年来次第に減少の傾向るより云ふも又地方の小農が衣食に窮して不穩の舉動あるより云ふも前年の如く豐なる生計を營むものと見る可らず經濟社會の不景気が既に一般に波及したる今日勵業銀行が些細の資金を吸收するの効ありと稱して債券を募集するは時機を失したるものと云ふの外なく又假令云ふも又地方の小農が衣食に窮して不穩の舉動あるより云ふも前年の如く豐なる生計を營むれば銀行は再び資金を吸收するときは農工銀行が債券を發行するに至て自から應募者を減じて勵業銀行に引受けを請求するの必要ある可ければ銀行は再び資金の欠乏を感するやも詰り難かる可し銀行の方より見れば今度の債券は昔に額面の低さのみならず前三回の方と比較するときは割増金の歩合井に抽籤の數を増したるを以て自から資本家の投機心を撓撻するの効ありと云はんかなれども銀行に資金を預け入るれば安全に七分以上の利殖を爲すを得る場合に僅に十五倍の割増金と二百五十の花鏡とに歸はれ五分の低利に甘んじて投資する者多かる可しとは實際に信じ難き所なり或は勵業銀行が債券の募集に熱心なるは全く一方に貸出しの必要切迫せるが爲めにして若しも其募集に困難なりとあらば日本銀行に於て之を引受けて貸出しの資金を供給する所を今の經濟社會を救濟するの道なりとの說あり中央銀行が勵業銀行に資金を供給するの可否は獨逸なきに於て屬々實際の問題となるものにして我國に於て勵業銀行の貸出しに依て救濟の道を特んとする事業家の輩が斯る說を主張。

するは當然の事なれども元來政府が勵業銀行を設立したる主旨は商業上の金融機關たる日本銀行と分離して資金収支の道を開からしめて、本銀行を抵當として保利長期の貸出しを營み以て、商業上に要する資本の固定する弊を除かんと云ふに外ならざれば右の如き種々の方法に依りて資金の供給を求むるは取りも直さず兩銀行の區別を破るものにして其結果は從來の弊害を再びするに過ぎざるのみ勵業銀行が獨力を以て債券を募集するの責あるは當然の事にして各地方に出張の重役業は如何にして當初の目的を達せんとするや銀行の營業上最も注意を要する所なり

りしといへり虎列拉が流行するは衛生の不行居に因るものなれば野蠻の證據、人民に痘痕あるは種痘の法を知らざるに因るものなれば不開化の看板なりと稱して國の耻とするふとなりが一地震の爲めに數萬の家を倒され數多の甚傑を殺す如きも恐らくは亦其類に洩れぬなるべし

通常日本の家屋を建築するを見るに敷居鶴居と柱梁と柱、桁と梁な等を取付るに金具を用ふるふと少しもなく一方の木材を削りて枘を作り他の一方に穿ちたる穴に之を指し込み又は木材を切り欠きて打逆へに他の木材を嵌め又彼の貫を柱に取付くるには相對せる柱に穴を穿ち之に貫きを指し楔を打込みて固定せしむる方法なり其次台座きて種々の變化あり内

以前に任命せられて法律の學識欠乏せるもの頗る多く甚しきに至ては當時行政官として無能其任に堪へざりし者は齎て以て判検事の閑職に轉せしむ可しと爲し材能學識共に具はらざりしの故を以て此の職を得せしむるに至りし所謂新律綱領辭代の遺物も亦決して少しだ爲さず此輩をして至重なる司法權選用の任に當らしむる豈に亦危からずや此れ老朽淘汰の弊をして上下に充满するに至らしめたる所以なり况んや憲法の實施は此等無能の在職者をして其職を曠うするにあらざれば即ち其職を誤らしむるの危頭に立たしむるに於てをや又況んや改正條約實施の旦夕に迫れる今日に當り上級法官の無能は帝國の威信を缺ぐのみならず延て累々國際上に及ぼすの虞あるに於てをや惟ふに老朽淘汰の必要なる未だ今日の如く急なるを見ず

或は云はん石垣を内側に於けるは即ち沿岸の理窟にして之を受くるに厚も端面を以てしたればふそ地震に逢ひ易く其形を損ぜざるべれども屋根外曲の焼瓦などを積むに此方を以てせんか之を受くるが爲めに馬鹿々々しく厚き壁を内側に作らざるべからず滅法界の費用を要すべし行成れ難きもとなりと然り我輩も亦直に此法を家屋に施さんとするものにあらず、東京帝國大學の構内に一の小建物あり總じて五層五を以て積み成したるものなるが其形内に於るあり日本道西洋造に論なく十分に心を用ひて建築すれば普通一般の地震に耐ふる如き此問題を片づけんそ世に恐ろしきは地震の理學思想に乏しき從來嘗て之に向つて工夫を凝らしたるふとなく漫に天災の一語を以て此問題を片づけんそ世に恐ろしきは地震雷、火事、親父にして其内にも地震は恐ろしかるものなれば人力を以て之に抗するは滅亡を速く基なり三十六計逃ぐるに如かずしかし家の周りに竹を植ゑて其藪にかけ込む機悟をなし或は戸口に暗戸を作りゆさくと搖き出せばスワ御坐んなれど其戸をあけて外へ飛出さん趣向をすれども地震は人間の如く氣長ならず數人の家族逃げ丁るを待つて始めて家を倒すなどのふとなし愚なる考といふべし斯く間違つたる思慮を以て家屋の建築を經營するが故に偶々大震の来るほどあれば軒を並べし數千百家新舊高低の差別なく忽ちの戸田、藤田の兩人を失ひ勘王家の若手連は暗夜に燈火を滅されたるが如き心地にて大震無神體の大西邸を「神體」として爲す所を知らざ

に種々の名稱あれども之を要するに木材の大  
きと厚みを減じ其力を弱めながら儘に組立  
の功を了りしのみ望半とすべき所少もなし故  
に一朝非常なる大風に遇ふか又は地震の起る  
ふとあれば木材は忽ち其弱點より押折る全家  
顛覆の難を蒙るなり（往年カゴ博覧會の足  
き日本の大工彼地に渡りて彼の鳳凰殿を建築  
せしが一切日本流にて柄指し欠き接ぎ等の仕  
事多かりしを米人等珍らしがり切りに其手際  
を賞賛せしとあり渡行の大工とも鼻を高うせ  
しが幸に地震の沙汰なき米國なればふぞ感心  
もし譽めもしたるなれ若しわが伊太利や希  
臘の如き都曾在つては七面倒なる枘穴の穿鑿  
用心なるを笑はれしるべし此方法は田舎  
の地方に於て全盛を極むるものにて東京など  
の如き都會に在つては七面倒なる枘穴の穿鑿  
に手の懸るを厭ひ中等以下の普請には成るべ  
り田舎の人は之を嘲りて家屋建築の本式に合  
はずとされども誰か知らん其本式と稱する切  
組み細工は元々鐵釘の缺乏に因り止むを得  
ずして起りたるものにして決して萬代不易の  
名法に非ざるを

く老朽無能の法官を一掃し盡す蓋し近きにあ  
るべしと信じたり然るに何者の頑迷漢ぞ敢て  
口を朋黨比周に藉り妄りに辭を憲法の蹂躪に  
託し法官獨立の美名を以て利祿懸々の情を包  
藏し此の空壳にして且つ恐らく絶後の必要な  
べき更始一新的計圖に向て妨害を策せんと  
するあらんとは頃者兒鷗惟謙氏の忠言書なる  
もの新紙に掲載せらる滔々數千言前内閣末に  
於ける司法部の更迭を痛論して革新の革新的  
を爲さず活斷の活斷たるを爲さずとなし遂  
に淘汰を目するに「塵潔の放逐」を以てし處分  
を呼ぶに「違憲違法」を以てし將に人をして淘汰  
汰其物の間に是非の疑を挾ましめんとするに  
至れり老成児鷗氏の如くにして此言を爲すは  
余輩の怪訝に堪へざる所氏の爲め將だ司法部  
の爲め慨歎せざるを得ざるなり朋黨結託の事  
は姑らく措て問はずとするも公々然之を呼ぶ  
に憲法蹂躪を以てし塵潔の放逐を以てし革新  
の前途に向て妨害を與へんとするの意見ある  
に至りては余輩其路を共にする者の看過する  
を得ざる所請ふ姑らく忠言書載する所の項目  
を逐一其妄を辯する所あらん

第一

## 汰と舞護士協會に當り老朽判事を済

の一事は痛く世間の物議を惹起し兒嶋惟謙氏の如きは大に其處置を憤り東大司法大臣に忠告する所ありたり該意見書の全文は本紙に記載したるが爾來同問題は一層火の手を上げ是非の議論益々喧しきにより日本護士協會は左の意見を發布し飽く迄其持論を決行する筈なりといふ

心を懷抱するが處分其物の是非を觀察するに付て論究を要するの問題たるやを解する能はざるなり假令二人者にして如何なる苦計密策の存せしよりとするも將た如何なる野心を抱藏せしよりとするも是宜しく二人者に對する德義上の問題として論難すべきのみ若し淘汰せられたる判檢事にして其職に適し登用せられたる判檢事にして却て其器に非ずんば假令至公至正の心を以て處分したりとするも尙且非難を加へざる可らず之に反し斥けられたる者老朽にして擧げられたる者俊材ならば假令當局者に多少の野心を包藏せりとするも結局司法革新の興望に副へるものとして其處置を稱せざる可らず之を要するに論難の當否を論ぜんと欲せば當に其躊躇せられたる者の能否如何に就て論斷を下すべきのみ何ぞ必ずしも處分の經過を論難し懲戒を摘抉し強て惡意を以て他人の心事を忖度して論難攻撃するみを預けんや世或は起草者が直に躊躇の當否

萬松館

京よりは熱田張、あり、先鞭を着く。此開會の接続の主意より度應義が、學資募集の必要と見て、話題を観て、さて、富田正見、森川吉、本吉、弓光